

なぜヒジャブをするのか？

5.0

明:

あるムスリム女性が、抑ではなく解放のためにヒジャブをすることを んだことに して 明します。

目: [事代における女性](#)

より: スルタ ナ ユ スフアリ

日 12 Jul 2010

集日 12 Jul 2010

私はおそらく“反抗者”というステレオタイプには合わないでしょう。私は目に える タトゥやピアスをつけてはいません。皮のジャケットが好きなわけでもありません。 事 大抵の人は最初に私を る、“抑された女性”という印象でも受けるのでしょうか。そして多少勇 のある人は、私にこのように私の服装のことについて ねます：“ がそんなにさせるの？” “不公平だと思わない？”

少し前、モントリオールで私のような服装をしている数人の女の子たちが学校から め出されました。小さな布切れがこれほどの 争を生み出すとはおかしなことのよう 思われます。多分彼らは、恐れているのは私がある下にも潜ませているのではないかと 怖がっているのでしょうか！ もちろん はただの布きれ以上のものです。私はヒジャブを することを んだ世界中の他の何万人ものムスリム女性 と同じムスリマです。そしてヒジャブの概念は、一般的意 とは 照的に は女性の 利の内の最も基本的なものなのです。

自分を覆う、私は事 上、自分の容貌によって人から判断されることを拒んでいるので す。つまり私は自分の魅力や欠点によって分 されたりしないのです。

このことを今日の社会の生活において比べてみましょう；私たちは常に洋服や装 品、 型や化 などによって他人を っています。このような世界にどんな深さがあるでしょう

？ ええ、私には肉体があり、そこにはある の身体的特 があります。しかしそれは知性
や い魂の器に ぎません。それは色目を使うために注目されるものでも、ビ ルから まで
全てを るための 告に使われるものでもありません。

私たちが住むこのうわべだけの世界のせいで、外 が大 され 性はほとんど重用 されては
いません。今日の女性が自由であるというのは本当に です！ 道を くたび、常に全身を
“チェック” しないとイケないような自由をどのような自由だと言うのでしょうか？

私はヒジャ ブをする 、このような全てのことから解放される がします。 も私のことを
たり、スカ トの丈によって私の性格を推 したりされないので安心出来ます。そしてそ
れは、私と私を乱用しようとする人との の障壁となるのです。私はまず一 の人 であり
、どの男性とも平等で、自分の性 ゆえに弱いのだということもありません。

今の 代の一番悲しい真 の一つは、美への いかけと女性の自己像です。人 のあるティ ン
向けの を むと、どのような た目がもてはやされているかが に分かります。そして、も
しあなたがそのような た目でなければ、そのように えなければならないのでしょうか？
局、太り ぎのまま美しくなることは 理なのです。

告を て下さい。女性が商品 に利用されていませんか？ 彼女は何 位ですか？ 魅力的でし
ょうか？ どんなものを着ていますか？ 大抵の 合その女性は20代前半以下で、背が高
く、 身で、平均よりも魅力的で露出の高い服を着ているでしょう。どうして私たちは
このように自分たちを操られることを しているのでしょうか？

90年代の女性は信じようが信じまいが、型にはまらされていました。彼女は自分の名
誉を 付けつけ、自分を るようなことを 要されました。それゆえ13 の少女は指をのどに
入れ、思春期の肥 の子供たちは首をつるのです。

人々が私に抑 されているように感じるかと ねる 、私は正直にいいえと言えます。私は
自分の自由意思からこの を出したのです。他人の私への 方を自分自身が操っている
という事 を に入っています。私は にも何も せず、女性を利用するファッション 界やその
他の 界の流行の拘束からも解放されていることを しんでいます。

私の体は私自身の です。 も私が美しいか、またはどのような格好をしなければならないかなどとは言えないのです。私は自分にはそんなことよりも大事なことがあるのを知っています。また私は、人から私の性が抑 されているかのように感じるかと かれたら、快く “いいえ” と答えられます。私は自分の性をコントロール出来るのです。私は体重で苦しむこともなく、どの口 が一番自分の肌色に合うかを探しまわることで苦しまなくてもよいことに感 じています。私は私に 先 があることにおいて 肢を んだのであり、他人のためにそれを ったりは出来ないのです。だから次に私を る は、同情の目でないで下さい。私は 迫されているわけでも、荒野のアラビア砂漠からきた男性崇 の女捕 でもないのです！ 私は解放されているのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/525>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。